

令和5年度学校自己評価システムシート (県立川越工業高等学校 定時制)

目指す学校像	社会の変化に主体的に対応できる力と自立する力を育成する
--------	-----------------------------

重点目標	1 基本的生活習慣の確立と基礎学力、技能の定着を図る 2 地域社会や家庭との連携を推進する 3 生徒一人ひとりの個性に応じた進路実現を目指す
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	6名
	事務局(教職員)	17名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		実 施 日 令 和 6 年 2 月 1 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】 ・多様な生徒が在籍している。 ・基本的生活習慣の定着は向上が見られる。 ・教育活動におけるICT機器の活用は定着しつつある。 【課題】 ・授業や課外活動に自主的に取り組む態度の育成。 ・多様な生徒に対応した教育課程の充実や観点別学習評価方法の検討と研修。	・基本的生活習慣の確立と基礎学力、技能の定着を目指した学習環境の整備 ・新教育課程の着実な実践と観点別学習評価の定着	①教職員の共通理解によるSHR、校内巡回、登下校指導。 ②アクティブラーニングやICT機器を活用した魅力ある授業の実践。 ③日本語支援員及び学習サポーターの効果的な活用。	①アンケート、職員面談等で学習規律の定着を確認できたか。 ②生徒の学習意欲・理解度等が向上したか。 ③教職員と外部支援者との共通理解が図れたか。 ④成果と課題のまとめを全教職員で共有できたか。	生徒アンケートでは授業・学校生活満足度(91.5%)、登校・出席意識(80.5%)と前年度から大きく上昇している。 ①生徒のレポートや提出物の期限意識は80.5%(R4:78.5%)。 ②ICT機器を用いた授業のわかりやすさは85.4%(R4:88.2%)。 ③日本語支援員(週3回・各4時間)学習サポーター4名(週3回・2~4時間)の活躍により、生徒の授業理解が向上。 ④1・2年次生に向けた5段階評価及び観点別評価は教職員に着実に定着。	A	①学校生活満足度を維持するためには、今後ともわかる授業、充実した授業づくりなどの授業改善が求められる。 ②保護者との共通理解によるきめ細かい生徒指導を継続したい。 ③日本語を母語としない入学生は確実に増加、日本語支援員による個別指導と授業支援が大切である。 ④学習サポーターの効果的な活用に向けた工夫改善を検討したい。	○生徒の学校生活満足度が上昇したことは良好なサイン。引き続き生徒目線に立った教育活動を継続してほしい。 ○外国籍の生徒、日本語を母語としない生徒は今後も増加する。外部機関との適切な連携が重要である。 ○学習サポーターは、大学生に教職の魅力を意識してもらうための手段としても有効な制度である。
2	【現状】 ・HPを活用し情報発信を行っている。 ・専門員や外部機関からの手厚い支援により生徒指導を展開している。 【課題】 ・学校関係者や地域に向けた教育活動の更なる理解促進。 ・専門員や外部機関、サポーターとの効果的な連携。	・地域・保護者からの理解を深める定時制教育活動の情報発信 ・地域、家庭、関係機関と連携した教育活動	①学校教育活動を工夫した内容でHPに掲載。 ②報道機関に向けた情報発信。 ③学校評議員会や学校評価懇話会を活用した定時制の理解促進。	①アクセス数を増やせたか。 ②新聞等による外部発信が増加したか。 ③評議員等の理解を深め、評議員意見を校務に反映したか。 ④連携回数、相談回数が増加したか。 ⑤生徒の課題は改善に向かったか。	家庭との共通理解のもとに各種支援員と連携した教育活動を展開している。 ①本校への入学を検討する生徒へのHP効果は大きい(学校相談アンケート)。 ②報道機関に向けた情報発信は未実施。 ③全定合同で開催したことにより全定の相互理解と共通の課題を確認した。 ④SSW(週3回・各6時間)、SC(年8回)、特支巡回支援員(年6回)の支援により生徒の課題に手厚く対応。 ⑤外部講師を招き生徒・教職員それぞれが「つながり」に関する研修会を開催(2/13)。	B	①行事ごとにHP担当者を決め、迅速な学校情報の発信を継続する。 ②受検生向けHPの再編集と学校案内パンフレットの改訂が必要。 ③工業祭等の学校行事を活用し、地域向けの情報発信をしたい。 ④各家庭に直接伝達できるメールシステムの構築が課題である。 ⑤外部機関、支援員と連携した教育相談体制の継続と拡充が必要である。	○地域からの理解を深めるためには、生徒の活躍を見ていただくことが最も良い。 ○きめ細かな生徒支援が行われている。今後も様々な制度を活用して生徒を応援してほしい。 ○働き方改革はすべての業種にとって喫緊の課題である。 ○チームで仕事を行う。職務内容を個人のブラックボックスに留めてはいけない。
3	【現状】 ・卒業後の進路選定に向け、粘り強い指導が続けられている。 ・多様な個性を持つ生徒の支援を組織的に実施している。 【課題】 ・生徒の自立を目指した教職員分掌間の連携指導。	・組織的、系統的な自立支援活動と生徒の進路実現	①登下校時等における挨拶運動を実施。 ②分掌間での生徒情報の共有と指導・支援の検討。 ③校外の進路説明会への生徒の主体的な出席指導。 ④就職支援アドバイザーと連携した就職指導。	①出欠等は改善したか、規律ある授業が展開できたか。 ②教職員が情報共有して、理解・支援を図れたか。 ③④生徒の進路実現ができたか。就職未定者数の減少ができたか。	卒業後の社会参画に向け、個別の生徒課題に応じた丁寧な指導が行われている。 ①挨拶運動は年間を通して実施。 ①出席率は87.2%(R4:84.5%)、遅刻率は6.4%(R4:5.4%)と出席率の上昇とともに遅刻者が増加の傾向。 ②生徒の情報は企画委員会・職員会議で周知、個別指導上の申合せは毎日の職員打合せで共有。 ③④進路状況は29名中、就職内定11名、大学5名、専門学校2名。(1/10現在)	A	①持続可能な挨拶運動実施のための体制づくりが必要である。 ②SHRでの的確な生徒観察と声掛けを推進したい。 ③特別支援コーディネーターへの迅速な情報提供と検討、個別指導計画の共有が課題である。 ④協力企業、就職支援アドバイザー、進路指導部の連携によるキャリアガイダンスを継続し、進路決定者の増加を目指す。	○教職員と生徒間の挨拶がこの1年で活発になった。先生方に感謝したい。 ○高校生が中学校に出向いて挨拶運動をするのも、元気な姿をアピールすることができ効果がある。